

陳情書

太宰府市中学校給食に関する陳情

1 要旨

中学校給食について自校方式での実施を求める陳情

2 理由

太宰府市議会では、中学校給食の導入について平成 28 (2016) 年 8 月 19 日に市長宛に要望書を提出されております。その内容は、①全員喫食の学校給食の導入 ②当面のランチサービスの充実 の 2 点を骨子としております。しかしながら、その後の市長の不信任案採決や議会の解散、市長選挙などがあり、中学校給食について具体的な進展がみられておりません。

中学校給食の導入につきましては、永年の太宰府市の懸案事項でもあることから、一般市民の関心も高いものがあります。議会としても、中学校給食の早急な実現へ向けて、その取り組みを強化・推進していただきたいと存じます。

また、中学校給食については、私たちの会では、以下の理由で自校方式がよいと考えております。

自校方式には、さまざまなメリットがあります。①配送コストが不要であること、②衛生管理が行いやすく万が一食中毒が発生しても被害を一校で食い止められること、③給食を適温で提供できること、④学校独自のメニューが作れること、⑤栄養教諭と学校との連携が密に図られることなどがあげられます。

さらには、自校方式には大きな可能性があります。まずは防災・減災の観点です。厨房設備が市内に分散していることは、それだけリスクを分散できます。次に、地域福祉の観点です。中学校区を単位とする地域包括ケアシステムの中で、これまで以上に学校と地域福祉の連携が求められています。将来的には、地域住民へのランチの提供、住民と子供たちの交流、また夏休みなどのランチサービス、一人暮らし高齢者への宅配サービスなどにもつながっていくでしょう。

そして、食は文化そのものです。日本人は歴史と風土の中でさまざまな食文化を創り出してきました。特に、太宰府は古都 1400 年以上の歴史ある町です。だからこそ食育、健康推進の立場から、地産・地消を取り入れた学校給食が望まれます。健康の基本は「食生活」にあります。育ち盛りの中学生への健康教育は、こどもたちの健康増進と将来の医療・介護費用の削減につながります。現在の単純なコスト比較ではなく、未来への投資こそが求められています。これからの日本を背負うこどもたちに健康で文化的生活を育めるようにするためにも、自校方式が最適と考えその実施を陳情いたします。

よって、太宰府市議会におかれましても今後ともに、よりよい中学校給食の実現へ向けて、行政（執行部）に対しての働きかけをより強めていかれますように望みます。

令和 2 (2020) 年 1 月 28 日

太宰府市議会議長 陶山 良尚殿

太宰府市青山

「これからの太宰府を考える市民の会」